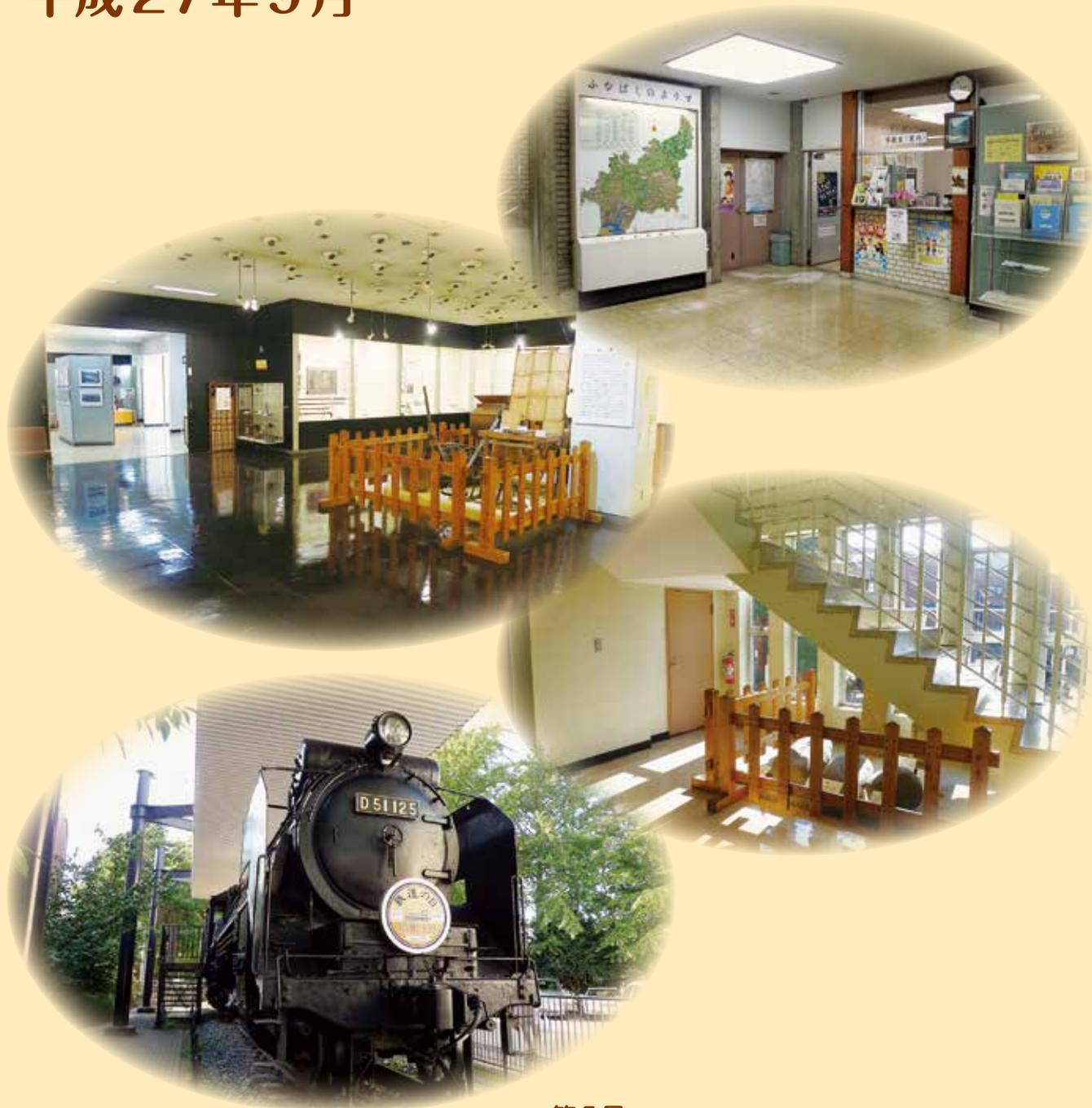


みゅーじあむ・船橋

Funabashi Historical Museum & Tobinodai Historic Site Park Museum News
みゅーじあむ
Vol.5
船橋

平成27年9月



第5号

博物館ニュース	[2]
郷土の歴史 三山	[3]
ふなばしめぐり 二宮神社	[3]
船橋の明治・大正・昭和 鉄道の開通 その1	[4]
近代教育の出発と船橋の学校	[5-7]
インフォメーション	[8]

博物館ニュース

郷土資料館・飛ノ台史跡公園博物館の企画展や事業をご紹介します。

郷土資料館

「収蔵資料展 -なつかしの道具たち-」

平成 27 年 7 月 22 日(土)～9 月 30 日(日)まで開催いたしました。

郷土資料館の収蔵品から衣類や家電製品を中心に少し昔の暮らしの道具を展示しました。

ご年配の方々に懐かしく、子どもには見たことのない新鮮な生活の道具を、夏休み期間ということもあり、多くの方々にご覧いただくことができました。



飛ノ台史跡公園博物館

第 15 回 縄文コンテンポラリー展 in ふなばし

「環」北海道・サハリン・カムチャッカ～北米へとつながる古代と現代

平成 27 年 7 月 19 日(日)～8 月 30 日(日)まで開催いたしました。

今回、ネイティブアメリカン*・アーティスト 41 名による 46 作品、日本人作家 8 組による 30 作品、合計 76 作品の展覧会となりました。日本で、これだけ大々的にネイティブアメリカンアートを紹介したのは、初めてのことで、多くの方々に、民族の伝統を現代的に表現した作品や鉄・焼き物の造形作品、縄文土器の文様を映像で表現した作品、北方民族の研究成果などを鑑賞していただきました。初日には、来日した 7 名のネイティブアメリカン・アーティストによるスライドトークとワークショップが行われ、小学生から大人まで幅広い年齢層の方にご参加いただき、美術を通して交流を深めることができました。

※北米大陸の先住民族

郷土資料館・薬円台公民館 共催事業

「地域史講座」を開催いたしました。

地域の歴史にテーマをあて毎年行っている講座です。今年度は郷土史研究家で船橋市史編纂に携わった綿貫啓一氏に「船橋と俳諧 -江戸時代、俳諧に熱中した郷土の文化人たち-」と題し、江戸時代後期～明治時代初期にかけて、船橋で活躍した斎藤その女・遠近庵三市などの船橋の農村が輩出した郷土の俳人について、解説いただきました。



郷土の歴史

三山

三山は「みやま」と読み、江戸時代の記録には「深山」「御山」「宮山」と表記され、特に「御山」の文字が多く用いられています。「神の御山」から起こった名で、神とは二宮神社のことを指し、「三山は二宮神社を中心として発達した村である」と『船橋市史前篇』に記されています。

先史時代の遺跡の発掘調査は行われていませんが、三山小学校付近に貝塚があったことが知られています。また、旧久々田地区(習志野市)から北に向かって入り込んだ菊田川、さらにその支流の三田川の最上流部分に位置し、古くから水田耕作をする集落があったようです。江戸時代には、古から続く集落の南東側の原野を開墾して新しい村ができます。開墾者の中心が行徳湊新田(別名、今湊)の出身者であったため、今湊新田と呼ばれました。明治になり、三山

本村と同じ村となります。明治 11 年(1878)、田喜野井・滝台新田・薬園台新田と連合し、明治 22 年(1889)に市町村制実施により、先の 3 村の他、前原新田・上飯山満・下飯山満と共に千葉郡二宮村を組織し、大字三山となりました。

二宮村は昭和 3 年(1928)、町となり、昭和 28 年(1953)に船橋市と合併します。昭和 30 年(1955)に新町名設定で船橋市三山町となり、昭和 53 年(1978)に、船橋市三山 1～9 丁目となりました。昭和 20 年代は農業が中心の地域でしたが、昭和 30 年代後半から 40 年代にかけ、宅地化が急速に進み、人口が大幅に増加しました。現在、17,367 人(三山 1～9 丁目・平成 27 年 8 月 1 日現在)が暮らす地域となっています。

ふなばしめぐり

二宮神社

社伝によれば、弘仁年間(810～24)の創建とされ、平安時代の『延喜式』に記されている「寒川神社」を二宮神社と比定する説があるほどの古社です。

二宮神社を中心に行われ、570 年以上前の故事が起源とされる「下総三山の七年祭り」は千葉県指定文化財。安永年間(1772～1881)に再建された「社殿」、安政 5 年(1858)に刊行された『成田参詣記』にも描かれている「イチョウ」の巨木、文久 3 年(1863)近在の俳人たちによって奉納された「斎藤その女等奉納句額」、古くから祭礼の際などに演じられてきた「神楽」は、船橋市指定文化財となっています。



鉄道の開通 その1 (戦前編)

日本で初めて本格的営業の鉄道が開通したのは、新橋～横浜間で、明治5年(1872)9月12日(新暦10月14日)のことです。

船橋に初めて鉄道が通ったのは、その22年後の明治27年(1894)7月20日のことでした。

総武鉄道が市川～佐倉間で開通し、船橋駅が開業します。同年12月には市川から江戸川を越えて、本所(現:錦糸町)まで路線が延長されます。翌年4月12日には中山駅(現:下総中山駅)、9月21日には津田沼駅が新設されます。

明治27年に発行された銅版画には、鉄道が開通したばかりの船橋駅周辺が描かれています。その一部分を拡大したものが図1です。「ステーション」と記されているところが駅舎です。駅周辺には建物はなく、田んぼが広がる中を、蒸気機関車に牽かれた客車が千葉方面へ走る姿が描かれています。街道沿い(現:本町通り)には商家が立ち並んでいますが、鉄道開業当時は駅前にはほとんど建物がなかったことが見てとれます。

図2は、明治37年(1904)に本所～両国橋間が開通した記念に発行されたと考えられる絵葉書の一部です。写真のような蒸気機関車が当時、船橋を走っていました。

総武鉄道は、明治40年(1907)に国有化され、現在はJR東日本総武線となっています。

市内で、次に開通した鉄道は、京成電気軌道(現:京成電鉄)です。大正5年(1916)に中山～船橋間が開通します。開通に先立つ、明治44年(1911)、船橋に発電所が造られ、船橋や津田沼に電力が供給されます。電車だけでなく、電灯も船橋にやってきました。

続いて、大正12年(1923)に、北総鉄道が柏～船橋間を開通させます。北総鉄道はその後、総武鉄道(前述、総武鉄道とは別会社)となり、昭和19年(1944)に東武鉄道に合併されました。現在

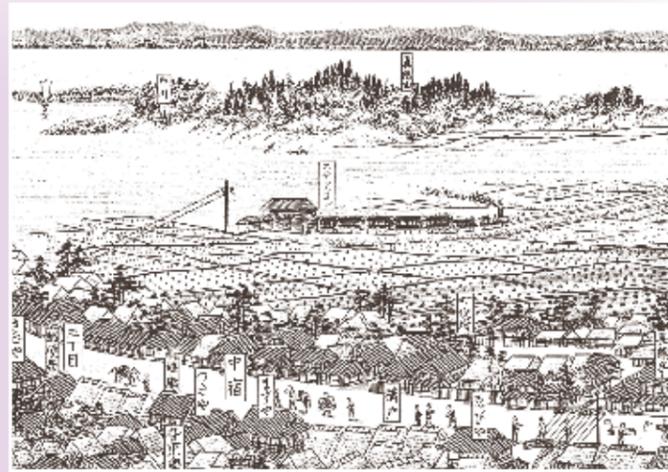


図1 銅版画「延喜式内意富比大神宮」より抜粋 明治27年



図2 総武鉄道本所～両国橋間を走る蒸気機関車

の東武野田線(アーバンパークライン)です。

少し変わった鉄道として、木下街道に、人がトロツコを押して、人や物資を運搬する東葛人車鉄道がありました。明治42年(1909)に開業しましたが、長くは続かず、大正7年(1918)には廃止となりました。

また、完成を見ることなく、幻と終わった鉄道として、船橋鉄道があります。大正時代初め、現在の船橋市域を縦断し、船橋から柏を結ぶ鉄道を敷設する計画でしたが、会社の資金繰りの悪化などで計画は頓挫し、開通にはいたりませんでした。

近代教育の出発と船橋の学校

学制発布と千葉県

明治5年(1872)8月、学制が発布されました。基本理念は2つです。1つは「学問は身を立てる財本」という功利主義的な考え方、2つ目は「教育は、国家の以て富強安楽なる」基となるという考え方です。

「必ず邑(むら)に不学の戸なく、家に不学の人なからしめん」ことを期して、すべての日本国民を対象とした国民皆学の理念を宣言しました。

当時の印旛県、木更津県はこれに積極的に反応し、以下の政策を打ち出しました。

- 戸数300、1500人程度を小学区とし、1区ごとに1小学を設置する。
- 小学の場所は、さしあたり最寄りの寺院または民家とする。
- 費用は別に定める基準に従って各戸に割当て、毎月集金し、生徒の授業料と合わせて書籍や教具、教員並びに学区取締役の給料、薪炭、油、筆、紙等の費用に充てる。
- 教授人(教員)は、それまでの教官、あるいは私塾等で指導していた者の中から力のある者を選んで採用する。

船橋地域が含まれる印旛県は、明治5年の学制発布と同時に流山の常与寺に「印旛県公立学舎」(右写真は常与寺にある記念碑)という模範学校を設立し、新しい教授法を勧める進取性を見せています。

この学舎は、翌年、千葉県発足に伴い千葉町へ移転し、後の千葉師範学校(現千葉大学教育学部)の母体となります。

全国学区制

全国を8大学区、各大学区を32中学区、各中学区を120の小学区に分け、各小学区に1校の小学

を設立することとした。従って全国に53,700小学ができることとなります。ちなみに現在の全国小学校数は約21,000校ですから、その計画の壮大さがわかります。また、小学の学制においては、下等小学4年、上等小学4年の四・四制がとられました。この8年間は尋常小学と呼ばれる課程で、6か月毎の進級試験がありました。

明治初期の教育内容

時間割 真名小学(現宮本小学校)下等五級(7.5才相当)の例

時間	1 6の日	2 7の日	3 8の日	4 9の日	5 10の日	31 日
9:00～10:00	休課	会話 暗誦	会話 暗誦	会話 暗誦	会話 暗誦	会話 暗誦
10:00～11:00	休課	算術	算術	算術	算術	算術
11:00～12:00	休課	読本 読方	単語	読本 読方	単語 書取	読本 読方
12:00～1:00	休課	休	休	休	休	休
1:00～2:00	休課	地学 読方	養生 口授	地学 読方	修身 口授	地学 読方
2:00～3:00	休課	習字	習字	習字	習字	習字

暗誦(そらよみ) …前日学んだことを暗唱します。

単語書取(ことばのかきとり) …五十音順に単語の文字を綴ります。

会話(あるいは問答) …単語図を用いて絵図の説明を問答にて行います。

修身口授(ぎょうぎのさとし) …『民家童蒙訓』などを用いて礼儀などを話し聞かせます。

読方…五十音図と濁音図でかなの発音を、単語図で読み方、名前を教えます。

算術…数字の読み方書き方、位取りを、算盤で加減算、九九の暗唱を教えます。

習字(てならい) …初歩手本を使い、かな、数字を教えながら運筆を教えます。

養生口授…自身の健康管理や保健に関することを指導します。

休課…1の日、6の日が休課というのは、「一六休み」と称される休日の取り方です。毎月1、6、11、16、21、26日が休日となります。七曜週体制(日曜休日、土曜半休)が定着していくのは明治9年(1876)以降です。



市域内における学校の設立状況

明治8年までに設立された市内における学校は15校です。校舎の設置場所はほとんどが寺院です。江戸時代の寺子屋や私塾をそのまま利用したと思わ

明治8年(1875)の設立状況

校名	使用校舎	生徒(人)			教員(人)	旧地名
		男	女	計		
船橋小学	行法寺	56	49	105	2	九日市
真名小学	了源寺	108	29	137	2	五日市
海神小学	地藏院	66	31	97	1	海神
夏見小学	薬王寺	40	6	46	1	西夏見
納谷小学	覚王寺	73	70	143	2	九日市
米ヶ崎小学	無量寺	48	5	53	1	米ヶ崎
西海神小学	吉祥院	28	19	47	1	西海神
印内小学	光明寺	31	8	39	1	印内
二子小学	多門寺	94	35	129	1	二子
柏井小学	昌行寺	79	4	83	2	柏井 (明治12年藤原新田へ)
金杉小学	金蔵寺	52	6	58	1	南金杉
前原小学	道入庵	50	2	52	1	前原新田
飯山満小学	東福寺	59	6	65	1	上飯山満
金堀小学	竜蔵院	71	3	74	1	金堀
小野田小学	光明寺	60	3	63	1	小野田

※校名は「～小学」で統一
『文部省年報、第三(明治8年)第2冊』、
『市史資料編(七)別冊』等をもとに作成

れます。また、女子生徒の少なさが目立ちます。これは全国的な傾向でもありました。(下表参照)

その後、明治12年の「教育令」、明治19年に「小学校令」が公布され、明治33年の改正小学校令により義務教育年限が4年と定められ、同40年には6年となります。日本の近代学校教育の基礎が徐々に築かれていくこととなります。それに伴い、市内の小学校は次第に整理・統合されていきます。

明治初期の就学率(千葉県と全国)

性別	年	明治6年(1873)	明治11年(1878)
		千葉県	男 42.9%
	女 10.7%	17.0%	
	計 28.2%	37.8%	
全国	男 39.9%	57.6%	
	女 15.1%	23.5%	
	計 28.1%	41.3%	

『千葉県教育百年史』第1巻より

明治期の船橋小学校

市内で近代教育のさきがけとなったのは現在の船橋小学校です。主に明治期の沿革を紹介します。

明治5年11月18日、九日市行法寺に「第一大学区第二十六番中学区四十八番小学」(「全国学区制」参照)として開校しました。翌年に真名校(現宮本小)、海神校(現海神小)、夏見校(現八栄小)と分校を設けました。同年、覚王寺に設けた分校を「乙用九学校」と称した関係で、「甲用九学校」と改称します。



明治18年(1885)に竣工した校舎

明治8年、「船橋小学」と改称します。同時に乙用九学校は「納谷小学」となります。2年後に両校は合併します。教育令改正に伴い、明治13年「船橋小学校」と改称します。ここまで全て寺院を校舎に充てていました。生徒が増加するに従い、その狭さから入学を断る事態が生まれてきていました。

そこで、学校新築の委員会が組織されます。今までの積立金に加え、寄付を有志に募り、敷地を購入し、地均しが始まったのは明治17年6月です。九日市の人々に一日50～60人、延べ2,500人の勤労奉仕を得ての作業でした。9月、台風が船橋を襲います。海老川河口に留め置いた石材、材木が流されるという不運に見舞われます。明治18年11月18日、上棟式実施に至りましたが、費用不足により工事は遅れ、委員はさらなる資金集めに奔走します。

明治18年6月20日、開校式を迎えます。敷地1,000余坪、校舎178坪を工期330日、総額5,650円を費やしての工事でした。「此日天気晴朗、早旦ヨリ校門、玄関及ビ二階三ヶ所へ国旗ヲ交叉シ、数百ノ球燈ヲ中天ニ掲ゲ、市内戸々日章ヲ翻シ、軒ニ八球燈を釣ス。」と沿革史に記されています。町を

あげての祝事であったことがわかります。

明治19年の小学校令の公布に伴い、翌年「九日



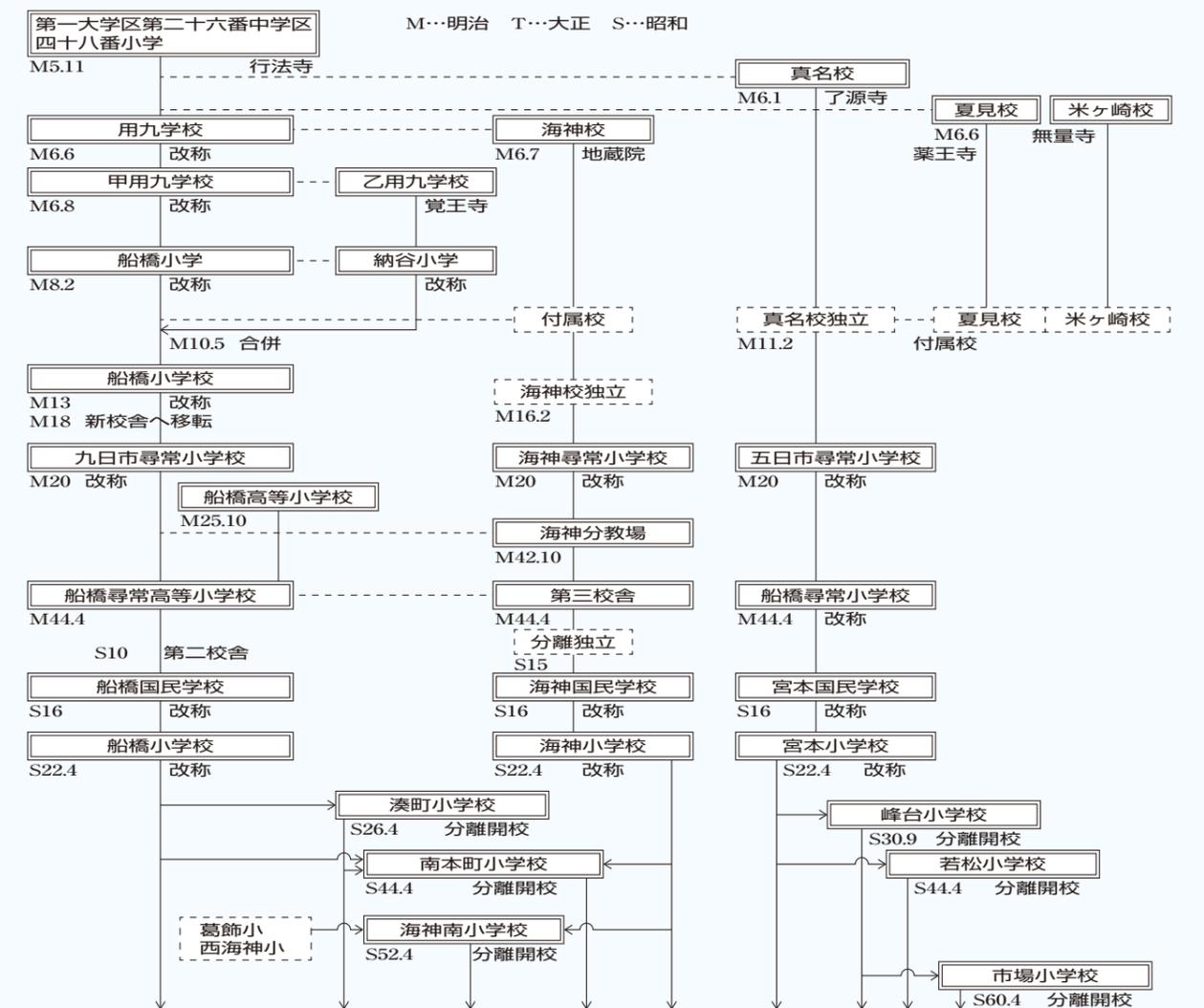
昭和22年まで「第一校舎」と呼ばれ、現在の市民文化ホール・中央公民館の位置にありました。船橋駅からの道路開通に伴い、昭和22年、西側に移築します。昭和26年からは中央公民館として使われました。

市尋常小学校」と改称し、同44年、高等科の併設により「船橋尋常高等小学校」となります。



現在の船橋小学校
昭和10年、「第二校舎」として落成しました。昭和22年以降本校となります。昭和36年、市内初の鉄筋校舎が建築されます。
平成26年、新校舎が落成し、10月入校式を行いました。

船橋小学校を中心とした旧九日市、五日市の小学校の変遷



郷土資料館

耐震補強・エレベーター設置工事等のため、平成27年10月1日から平成29年4月(予定)まで休館致します。
 休館中は、休業日をこれまでの月曜から、土曜・日曜・祝休日及び年末年始に変更させていただきます(蒸気機関車はこれまでどおり、土日祝に公開・雨天中止)ので、お問い合わせ等につきましては休業日を除く、午前9時～午後5時までの間にお問い合わせをお願いします。市民の皆様には大変ご迷惑をおかけ致しますが、ご理解賜りますよう、お願い申し上げます。

- ☆歴史見学会「船橋の歴史散歩 騎兵連隊と七年祭りの史跡を巡る ―三山の歴史―」 10月17日(土)開催致します。
- ☆文化講演会「徳川家康と船橋 ―御成街道と東金鷹狩―」 11月14日(土)開催致します。詳しくは10月15日号市広報でお知らせ予定です。

飛ノ台史跡公園博物館

☆講座 縄文大学「ヒトの流れ、モノの流れ～縄文石器の文化・流通～」全4回

今年は、縄文時代の石器についての特集です。当日先着順。
 内容：下記のとおり 会場：船橋市民文化創造館きららホール(船橋駅前FACEビル6F)
 時間：午後6時30分～8時(受付開始午後6時から) 受講料：無料 定員：170名

期 日	内 容	講 師
9月30日(水)	縄文石器の流通と文化	大工原 豊氏 國學院大學 兼任講師
10月7日(水)	石材の流通 ～科学の目でみた黒曜石の産地と搬入経路～	建石 徹氏 文化庁美術学芸課文化財調査官
10月21日(水)	道具としての縄文石器 ～分銅形打製石斧の出現と拡大～	芹澤 清八氏 とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センター 副主幹兼調査課長
10月28日(水)	儀器としての縄文石器 ～石棒・石剣の製作と流通～	長田 友也氏 中部大学 非常勤講師

- ☆企画展「船橋の遺跡」展 平成27年11月3日(火)～12月27日(日)
船橋市内の各地域・各時代の遺跡を発掘調査の成果を紹介します。
- ☆郷土資料館 企画展「くらしの道具 飛ノ台史跡公園博物館編」平成28年1月16日(土)～2月28日(日)
小学校3・4年生で学習する「むかしの道具とくらし」に合わせ、むかし使われた道具を展示します。郷土資料館の出張展示です。 会場：1階ギャラリー
- ☆バスで訪ねる博物館見学会(社会教育バス利用) 平成27年11月7日(土)
夢紫美術館、佐原の街探検、香取神宮宝物館を予定しています。詳細は10月1日号の市広報でお知らせいたします。
- ☆講座 考古学講座(海神公民館と共催) 平成28年1月16日(土)・1月23日(土)・1月30日(土)を予定。
身近な遺跡や地域の歴史、最新の考古学情報などを学びます。 会場：海神公民館講堂
- ☆第5回飛ノ台史跡公園博物館・海神中学校合同展
「日本の美を今に活かした作品展」平成28年3月を予定。海神中学校と飛ノ台史跡公園博物館の縄文土器を活用した連携授業で作した陶芸作品(1年)、型染めの布(2年)、拓本を使ったボックスアート作品(3年)を展示。 会場：1階ギャラリー

ご利用案内・交通案内

郷土資料館 (平成27年10月1日～)

受付時間 午前9時～午後5時
 休業日 土曜・日曜・祝休日及び年末年始
 住 所 船橋市薬円台4-25-19
 電 話 047-465-9680
 F A X 047-467-1399
 Eメール kyodo@city.funabashi.lg.jp

交通案内

新京成電鉄 習志野駅下車 徒歩10分
 JR津田沼駅北口から
 習志野新京成バス「高津団地中央」「北習志野駅」行き、または、ちばレインボーバス「八千代緑が丘駅」「船尾車庫」「JR木下駅」行き
 「郷土資料館」下車徒歩1分



飛ノ台史跡公園博物館

開館時間 午前9時～午後5時
 (入館は午後4時30分まで)
 入館料 一般100円(団体20名以上70円)
 児童生徒50円(団体20名以上30円)
 市内在住中学生以下 無料
 住 所 船橋市海神4-27-2
 電 話 047-495-1325
 F A X 047-435-7450
 Eメール tobinodai@city.funabashi.lg.jp

交通案内

東武アーバンパークライン(野田線) 新船橋駅下車 徒歩8分
 京成線 海神駅下車 徒歩15分
 東葉高速鉄道 東海神駅下車 徒歩12分
 新京成バス JR船橋駅北口から建鉄循環「海神中学校」下車 徒歩1分



休館日カレンダー

10月							11月							12月							平成28年 1月							2月							3月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3	1	2	3	4	5	6	7			1	2	3	4	5	3	4	5	6	7	8	9	7	8	9	10	11	12	13	6	7	8	9	10	11	12
4	5	6	7	8	9	10	8	9	10	11	12	13	14	6	7	8	9	10	11	12	10	11	12	13	14	15	16	14	15	16	17	18	19	20	13	14	15	16	17	18	19
11	12	13	14	15	16	17	15	16	17	18	19	20	21	13	14	15	16	17	18	19	17	18	19	20	21	22	23	21	22	23	24	25	26	27	20	21	22	23	24	25	26
18	19	20	21	22	23	24	22	23	24	25	26	27	28	20	21	22	23	24	25	26	24	25	26	27	28	29	30	28	29						27	28	29	30	31		
25	26	27	28	29	30	31	29	30					27	28	29	30	31	31																							

□ は飛ノ台史跡公園博物館休館日 郷土資料館は平成29年4月(予定)まで休館致します。